



編集・発行

大阪府立

呼吸器・アレルギー医療センター

大阪府羽曳野市はびきの3丁目7-1

TEL: 072-957-2121

FAX: 072-958-3291

HP: <http://www.ra.opho.jp>

E-mail: [kokyucen@ra.opho.jp](mailto:kokyucen@ra.opho.jp)



## グローバル時代の結核・感染症治療

臨床研究部部长

まつもと  
松本 ともしげ  
智成

米国の医学雑誌 New England Journal of Medicine (NEJM)によりますと現在、世界における感染症における死因の一位は、呼吸器感染症。二位は、消化器感染症、三位は HIV 感染症。四位は結核となっています。

さらに、2009 年の世界保健機構(WHO)の推計では、世界中で年間に 940 万人が新規に結核を発病し、130 万人が結核で死亡しています。この数字は増大しており結核は再興感染症と呼ばれ、人類史上減った事が無い病気であります。特にアジア、アフリカでの増加が大きな要因であり、HIV/AIDS、多剤耐性結核(MDR-TB)と超耐性結核(XDR-TB)がその増加の一躍を担っております。HIV 合併結核、ならびに MDR-/XDR-TB はさらに結核の治療を質的にも難しくしています。

上記、世界の感染症による4大死因のうち3つまでが、大阪府立呼吸器・アレルギー医療センター感染症センターで扱う疾患です。関西空港から帰国者の発熱、結核、HIV 感染症、デング熱、マラリア、インフルエンザ診療を行っております。当センターでは、結核診療を中心に据えながらグローバルな感染症に対応しながら世界最先端の医療を提供しております。



## マラソンと呼吸リハビリテーション

呼吸器内科主任部部长

いしはら  
石原 ひでき  
英樹

空前のマラソンブームです。大阪・東京マラソンを始め、各地で開催されるマラソン大会の多くがあつという間に定員に達し、出場したくてもできないという話を耳にします。私の周囲にもこのブームに乗ってランニングを始めた人が結構います。私自身がフルマラソンを3時間未満で走るランナー(ちょっと自慢!笑)であることから、最近ランニングを始めた人たちからよく質問されるのが、『フルマラソンを完走するためにはどのようなトレーニングをしたらよいか?』というものです。その質問に対する答えは『だらだら走りましょう』です。『えっ??』と思う方もおられると思いますが、考えてみれば当たり前の話で、いきなりがんばっても当然体がついてきません。この『だらだら走る』をもう少し具体的に説明すると、人とおしゃべりしながら走ることができるペースで走るということになり、『にこにこペース』という場合もあります。そしてこのトレーニングを継続する(最低でも数ヶ月)ことで、『にこにこペース』そのものが向上します。この時点でさらに上のレベルを目指すのであれば、いわゆる『きつめのトレーニング』を考慮することになりますが、『にこにこペース』のトレーニングだけでもフルマラソン完走は十分可能だと思います。



実は呼吸リハビリテーションにもこの考え方を応用することができます。呼吸リハビリテーションの中心的な

メニューになる運動療法の実施法に、『高強度運動療法』と『低強度運動療法』があります。当然『高強度運動療法』を実施した方が、機能訓練的には良いように思われますが、たとえば酸素療法を実施している患者さんに『高強度運動療法』を実施することは困難なことが多いのが現状です。したがって、患者さんに無理のかからない『低強度運動療法』を選択することになります。『低強度運動療法』でも先述のランニングの『にこにこペース』と同様、継続することで機能訓練的な効果が得られます。また『高強度運動療法』ができる時点で運動療法を実施すれば、より効果が期待できることになり、こういった観点から、『早い時期に呼吸リハビリテーションを実施した方がいい』という考え方もあります。

当センターにはこれらを専門におこなっているリハビリテーション科がありますので、興味がある方は是非一度相談して下さい。

最後にわかる人だけわかって下さい。『来年の目標は鉄人です！』

## ＜薬局の紹介シリーズ⑨＞ICT について

薬局 はせがわ 長谷川 きとし 聡司

ICT (Infection Control Team 感染対策チーム) とは、医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師、事務職員からなる、各職種の専門知識を出し合って病院全体の感染対策活動を行うチームの事です。感染症は細菌やウイルスなどの病原体が原因で起こる病気で、感染対策とは、患者さんやその家族、医療スタッフを含めた病院に関わるすべての人が院内で感染症にかからないようにし、また院内で発生した場合には、いかに他の人に感染させないかの対応策を迅速にたてることです。病院の中には感染症で入院されている患者さんや、また抵抗力が落ちて感染症にかかりやすい患者さんも多くおられるので、この感染対策は今や多くの病院で行われています。当センターでの活動内容は、より清潔な医療環境を作るべく、病院のどこでどんな感染症が発生しているのか、どのような細菌が見つかったのか、感染症の治療薬である抗菌薬はどの種類のもが使われているか、などのデータを集め、週に一度 ICT でパトロールし院内の環境が清潔かどうかをチェックしています。また感染対策に関わる相談を受けアドバイスや対策を考え、抗菌薬の使い方・手洗いの正しい方法・針刺し事故防止の教育活動やインフルエンザワクチンの接種を奨めています。

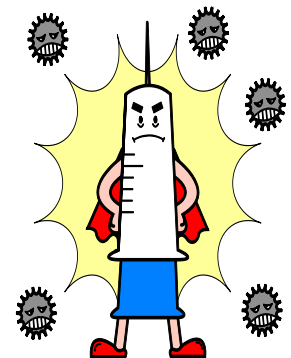


その中での薬剤師の活動は、

- ① 院内パトロールへの参加
- ② どの抗菌薬が使われているかの調査
- ③ 患者さんに適切な抗菌薬が正しい方法で使われているかの確認
- ④ ある抗菌薬は腎臓が良くない患者さんに投与する場合、厳密に薬の量を調節する必要があるために薬剤師が計算し医師への提案
- ⑤ 抗菌薬の院内での勉強会

など主に抗菌薬を通じて感染対策を支援しています。

また、近年抗菌薬が効きにくい耐性菌による院内感染の話題がマスコミでも報道され社会問題にもなっていますが、当センターでは今年度より他の病院と連携して感染対策を行っており、地域をあげての感染防止対策を目指しています。



## 9月の教室案内

*カンガルー教室	●9月5・12・26日	午後1時半～	第1会議室
*禁煙教室	●9月6日	午後3時30分～	医療情報コーナー
*喘息教室	●9月20日	午後2時～	第2会議室